

4月25日



広報

川越

■発行所 川越市役所

■電話 川越 (0492) 23-1450(代)

■発行人 川越市長 加藤 龍二

■編集 企画部企画課





児童の増加年間二千以上 積極的に校舎を建設

四月八日、市内の全小学校で、一斉に入学式が行なわれました。ことし小学校に入学されたお子さんは、約三千二百名で、昨年より新入学児より五百名も多くなっています。

そしてこの傾向は、人口が増加するに比例して、ますます強くなってきます。

このことは、新入生のみではなく、全学年に共通したもので、昨年一年間だけを見ても、小学生が約千二百名、中学生約九百名と、それぞれ増加し、小・中学生合せて二千二百名もふえたわけです。

市内の小学校十九校の一枚平均児童数は、昨年度で約七百四十名で、一日も早くこれらのものを改善するよう計画を進めています。

しかし、市の財源にも限界があり、七校の割で建設する必要があります。

そこで、市ではこの数年、特に学校建築に力を入れ、新設校の建設をはじめ、児童急増校の増築、老朽校舎の改築などを、積極的に進めてきました。

その結果、校舎をはじめ各学校の施設も、年々整えられ近代的になってきていますが、まだ一部の校舎で老朽化したものもありますので、一日も早くこれらのものを改善するよう計画を進めています。

市では、市が健康で文化的な生活を営んでいただくことを基本に行なわれるわけですから、教育施設以外のあらゆる施設や、施策も重要な仕事となります。

したがって、川越市の人口が、急カーブで上昇しはじめた昭和四十年ころから、市の予算も教育、

建設、福祉を三本の大きな柱として編成し、平行事業として行なってきました。

教育関係予算についてみると、次の表のとおり、昭和四十年年度の三億五千九百万円に対し、昭和四十六年度は約四億の十三億七千九百万円となっています。

一般会計予算のうち教育費の占める割合は、二〇・一五と、市の行政施策のうちでも、教育関係は、いつもトップにあげられてきています。

教育費の推移 (単位千円)

年度	一般会計予算	教育費	割合
40	1,702,626	359,563	21.12
41	1,947,219	503,002	25.83
42	2,191,937	464,293	21.18
43	2,920,320	647,519	22.17
44	4,480,760	927,279	20.69
45	5,522,195	1,322,912	23.95
46	5,405,000	1,379,300	25.52

数が増加した学校、老朽校舎、霞ヶ関小・中校の防音校舎などで、九十八教室の増築を行なっています。これを数からみると三・四校を新設したことに匹敵するわけです。

本年度は、大東西小学校の防音校舎をはじめ、小・中学校六校の増築が計画されていますが、いずれにしても学校建築は、用地取得をはじめいろいろ問題がありまして、市民のみならずのご協力をお願いいたします。

水質公害の防止に 下水道建設を推進

工場や住宅地域から、無秩序に排出される大量の汚水は、日まじに大きな社会問題となっています。川越の場合でも、かつては入間川や新河岸川の清流を、魚が泳ぎまわっていました。いまでは「死の川」となって魚の姿も見られなくなっています。

こうした現実を、自然をこわし川を醜くし、そしてそこから発生する有毒ガスが付近住民の健康を害し、さらに伝染病の温床にもなりかねません。

ではどうしたらよいのでしょうか。根本的な治療法は、なんといっても下水道を整備することです。そして工場や住宅から排出される汚水を、直接川に流さずに下水道をと処理場で始末すればよいわけです。そこで市でも精力的に下水道の建設を進めるとともに、

川の汚れを調査するとして「死の川」から「生命ある川」にするために昼夜努力を続けています。

めだつ川の汚れ
浄化にご協力を

検査項目	PH	SS ppm	COD ppm	BOD ppm
新河岸川上流	6.77	252	173.3	未検査
入間川初雁近	10.05	10	49.3	98.6
川付川	7.19	未検査	10.4	未検査
上流	8.29	64	8.0	6.2
大谷川上流	7.32	未検査	5.3	2.98

市内を流れる主要河川が、工場や住宅から排出される排水で汚れがひどくなってきたため、市が昨年度市内主要河川の実態調査をしたところ、次の表のような結果が出ています。

また最近、県と市が市内八十五工場を対象に、工場排水の水質検査を行なったところ、水質基準をこえた、悪質な水を排出していた工場が三十一工場もありました。

そこで、これらの工場に対して施設の設置・改善等の勧告および通知を行ない、至急改善するように呼びかけています。

市の交通指導員誕生

学童の登下校時に活躍

四月一日付で川越市の交通指導員二十人が誕生しました。

交通指導員は、子どもたちの登下校時を中心に交通指導を行ない、事故防止にご活躍いただくもので、任期は二年です。

四月二日農業センターで委嘱式を行ない、加藤市長から指導員にそれぞれ委嘱状を渡しました。指導員の氏名と指導にあたる場所は次のとおりです。(敬称略)

▽山田圭二(山城上交差点)、▽進藤喜純(的場、長島屋前)、▽友金信一(国道二五四号線山田地内)、▽鈴木源治郎(日枝神社裏)、▽富山泰祥(国道三五四号線、高階小入口)、▽大友康治(野田町地内交差点)、▽後藤隆(末広町一丁目地内交差点)、▽関口武男(県道川越所沢線、同仁会病院入口)、▽原口市左衛門(中原町一丁目交差点)、▽川上勇(仙波小裏)、▽樋口親



生武蔵野小入口)、▽倉橋蔵吉(小室地内通学道路)、▽小ノ沢敏夫(大東東小西側交差点)、▽栗原登茂二(東急団地内通学道路)、▽大田稔(角栄団地入口)、▽島村俊子(的場地内通学道路)、▽吉田慶子(福原小入口)、▽小谷野シズ(末広町地内通学道路)、▽岩間延枝(吉野町地内通学道路)、▽大島富美子(芳野小裏)

開票は、翌日の十二日午前七時から市民会館で行なわれました。各候補者の得票数は次のとおりです。(届出順、敬称略)

四〇〇九つるみ博
一六四四九 舟橋功一
一三、八〇一 はいじま照次
一八、二三六 関根初治
五、八五一 飯島謙輔
一三、三二〇 山口茂
▽有効投票 七一、五六六
▽無効投票 五五六
▽合計 七二、一一二

県議選

投票率は六二・九六%

統一地方選挙の前半、県議会議員一般選挙は、四月十一日午前七時から、市内二十九の投票所で行なわれました。

今回の選挙は、当日の有権者十一万四千五百六十四人で、前回より三万九百二十六人増加し、投票率は前回(六七・三三%)より下回り六二・九六%となっています。

葬祭用具の料金が改正に

市で扱っている葬祭用具の料金が、一部のものを除いて四月一日から改正になりました。このため通常のおとなの方が必要とする葬祭用具一式の標準経費は、火葬の場合四千三百九十円、土葬の場合三千六百五十五円になります。

この改正に伴って葬祭用具を購入したり、霊柩車、火葬場、祭壇を使用しますと、概算七千五百九十円、十円の経費が必要ですが、ただし土葬の場合には、使用しないものもありませんので、必要経費は火葬より安くすみすみます。

改正のおもなもの

	旧円	新円
棺桶(1号)	1,200	1,300
骨つば(1号)	300	320
骨箱(1号)	200	280
位はい	150	220
霊せん	130	150
とうば	90	110

南部地区の下水道 本年度から着工に...

受益者負担金など、市民のみならずのご協力で、川越市の下水道も、年々整備拡充され、処理区域も大幅に拡大されてきました。

東武鉄道以北の市街地は、ほとんど水洗化も可能となり、現在、南部地区の一部で工事が行なわれています。

本年度から工事が予定されている地域は、前年度に引き続き、市街地の進んでいる南部地区を中心に、総工費七億二千万円を投じて、面積百六十ヘクタール、世帯数約二千戸を対象に施行します。

この工事は、本年度から来年度にかけて完了させる予定ですが、国の補助金決定などによっては、若干工事期間が変更になることもあり得ますのでご了承ください。

また工事期間中、交通止めや、道路を掘り起こしたりして、日常生活にいろいろと迷惑をおかけしますが、市でも新しい工法を採用するなどして、工期の短縮に努力いたしますので、ご協力をお願いいたします。なお、工事予定地域は次のとおりです。

▽旭町二丁目四・二九番地、▽旭町三丁目一七・一九、二五・二八番地、▽新宿町一丁目八・一八番地、▽新宿町五丁目一・四、一三・二〇番地、▽脇田本町二・一、一四、二二・二五番地、▽野田町二丁目一・一四、二二・二五番地、▽東田町二丁目一・一三、二〇・二四番地

教育委員会人事

〔退職〕(三月三十一日付)
▽野川政之(社会教育課長)
〔事務取扱〕(四月一日付)
▽社会教育課長事務取扱、教育次長、小高一郎

〔転出〕
▽飯野五郎(高階中学校長)、▽斉藤務(芳野小学校長)、▽武田武雄(福原中学校長)

〔異動・新採用〕(四月一日付)
▽月越小校長、滝島三(県指導課)、▽南古谷小校長、上正雄(高坂小教頭)、▽大東東小校長、仲村巳左郎(福岡一小校長)、▽城南中学校長、園田正雄(霞ヶ関中学校長)、▽芳野小校長、柴藤綾二(越生小教頭)、▽霞ヶ関中学校長、野川政之(市教育委員会、社会教育課長)、▽福原中学校長、井上良夫(山口中教頭)、▽高階中学校長、中村彰二(初雁中教頭)

〔前消防団長、田中一朗氏の死亡に伴って、四月十二日付で新団長に細野浩平氏副団長が、また副団長には加藤恒夫氏がそれぞれ就任しました。〕

表紙写真

*喜多院... ①

喜多院は八三〇年(天長七年)に慈覚大師が開いた天台宗の寺で、本尊の薬師如来は書院の仏間に安置されています。一三〇一年(正安三年)には坂東本山としての勅許があり、一六二二年(慶長十七年)には家康から寺領五石が寄進されるなど、格式の高い寺です。一六三八年(寛永十五年)の大火にあい、わずかに山門、経蔵、鐘樓門、本堂(本堂は今の上野寛永寺に移転しました)が残ったのみで現在の客殿、書院、庫裡などは天海僧正が江戸城紅葉山の將軍別殿等に移したものです。室町末期の建築様式をしのぶことができます。これらの客殿、書院、庫裡、鐘樓門、山門、慈眼堂は建造物として重要文化財に指定されています。なお境内には慈恵、慈眼両大師をまつる大師堂があり、一般からは大師尊として親しまれ、正月三日の初大師には近郷近在の老若男女でにぎわいます。



〈高階保育園〉



〈月吉町保育園〉



〈菅原町保育園〉

高階、月吉町、菅原町の三保育園がこのほど完成しました。

新しい保育園で子どもたちは、元気に遊んでいます。

とくに、交通の便のよい菅原町保育園は、川越市では初の乳児保育の施設も整ったデラックスなものです。今号では、菅原町保育園の施設を紹介いたします。なお、菅原町と高階保育園は、国民年金の特別融資施設です。

＝高階、月吉町
菅原町＝

3保育園完成



〈乳児室〉



〈遊戯室を自由にかけまわる子どもたち〉



富士銀行などが
新一年生に
「黄色い腕章」贈る

4月8日、富士銀行、安田火災、安田生命、安田信託銀行から、市内の新入学1年生に黄色い腕章3,500個が贈られました。この腕章は、交通事故傷害保険付きのもので、富士銀行が交通安全キャンペーンとしてはじめた「腕章贈呈」は、ことしで7回目になるということです。



〈夏は子どものもく浴に使用さ浴室〉



五年生になつて

川越小学校 粕谷千賀子

五年生になると、いろいろな勉強がふえる。先ず、クラブ活動にはいるようになる。どのクラブにしようか。きめてはあがるが、じつさいにはちよつとまよつてしまふ。また、家庭科の授業がはいる。今度は二時間続きの時間わりが多いから、いろいろな面をたいへんと思う。わたしは社会科が得意なので五年生としての勉強はとくに強くて、自分で計画が立てられる。そして、自分で目標をきめてやった方

が、おもしろいのだ。

五年生になって、組がえをしたので、新しい友だちにかこまれて。一、二年いっしょになかよくやつた子なのに、急によそよそしい感じで、なんとなくへんな気持ちがある。むこうでもそう思っているのかな。一年の時からずつといっしょだった子も四入いる。なかよしのふくださんといっしょなのでとてもうれしかった。わたしはわりあい明るい性かくなので、友だちができると思うけれど、やはり心配である。一日の勉強時間もきめておいた方がいいかな。そう思つて自分できめたのは一時間つづけばすばらしいなと思う。今まで、計画は立てても、最後まで

私のふるさと



月遅れの七夕の頃に、七つの子が私にふると、私のふるさと山形は「めだためだの若松さまよ」の花笠音頭が聞え、踊りのパレードにきわみます。

上野から特受で四時間、丘の家の近くの小高い山形市内はもちろん、夏スキーのメックカ月山や扇状地も、手に取るように見えます。

そしてその下を「馬見ヶ崎川」が流れています。秋になると、この河原に子どもからお年寄りまで、大勢の人たちが集り各グループごとに河原の石で造つた炉をかこみ、大きななべで、じゃが芋、こんにやく、肉ねぎなどを煮て、にぎやかに芋煮会が開かれます。芋煮会が、いつ頃からはじまつたのかわかりませんが、材料のじゃが芋は、子どもたちが、じゃが芋の害虫(てんと)う虫を捕えたお礼として、農家の人たちからいただいたものです。農家の人からいただいたじゃが芋や材料をリヤカーに積み、それが落ちないように、小さい子をリヤカーに

芋煮会と私

〈山形市〉 国井香代子

乗せ押さえてもらいますが途中時たまきやじゃが芋が落ちたりして拾いながらガタガタ道を河原まで急いだものです。河原の近くの家から水をもらい芋煮がはじまります。芋が煮えるまで、こぎに寝そべつてマンガ本を見たり、お茶わんと箸をカチャカチャ鳴らしながら芋の煮えるのを待つてゐるすもいきました。しばらくすると、おいしそうなにおいが、河原一面に立ちこめ、湯気や煙で、集つた人たちの顔も霞んでしまふほどになります。

川越に来て三年、今でもその頃の山形が、なつかしく思い出されます……

みちのく山形には、多くの観光資源や民俗行事があります。

「みちのくをふたわけさまに導いたまふ、蔵王の山の雲の中に立つ」と、詩人斎藤茂吉が、こよなく愛した蔵王山をはじめ、将棋で有名な天童、上山、赤湯、その他多くの温泉もあります。

果物はミカン以外は、なんでもあるんじゃないかしら……特に山形市付近のサクランボ、ぶどう、洋梨。

またリンゴの木は、どの家の庭にもあつて、よく木に登つて食べたものです。リンゴをかじつたときの「カリッ」とした音が、今にも聞えてきそうです。

ふるさとを離れ、はじめてふるさとのよさが、思われるのも人情ではないでしょうか。山形県山形市印役町出身、川越市立郭町保育園勤務、(二十二歳)

私の提言

どもりを治し
楽しい生活を

川越市砂七二 宮沢正夫

私は「どもり」を治そうという努力をしています。民間の教育機関では、費用もかかりすぎるのでなんとか自分で治していこうと思つています。

川越市または近辺で、どもりで苦しんでおられる人がいましたら私と一緒に治すのを治し、楽しい生活を送ろうではありませんか。なお、お問い合わせは(四四三二四二四)宮沢へ。



（社会福祉協議会 会扱い）
▼福祉事業へ
▽四万一千円
坂戸町、和志武正男さん
▽百万円
新富町一丁目一〇一、竹内栄吉さん
（栄吉さんの妻、茂吉さんの葬儀に寄せられた香典から）

句会だより

初雁婦人句会

足場より口笛きこゆ春の風
てらてらと狐面売る桜の灯
春の宵破れ垣に透く裸の灯
うどの酢のきき過ぎて咳こぼしたる
よしの

息と、のふ坂の中途の藪椿
芥焼く火のめら〜とつくしの芽
交換の電車待つ間の囁れり
三溪園淀君の扇
敏子

春愁や引き出して見る砂雪隠 美代志
トラックで隊はこぼる、柳の芽 寿子
春愁や遍路煮炊きのうすけむり 松野

